

# 『まいごばなし』

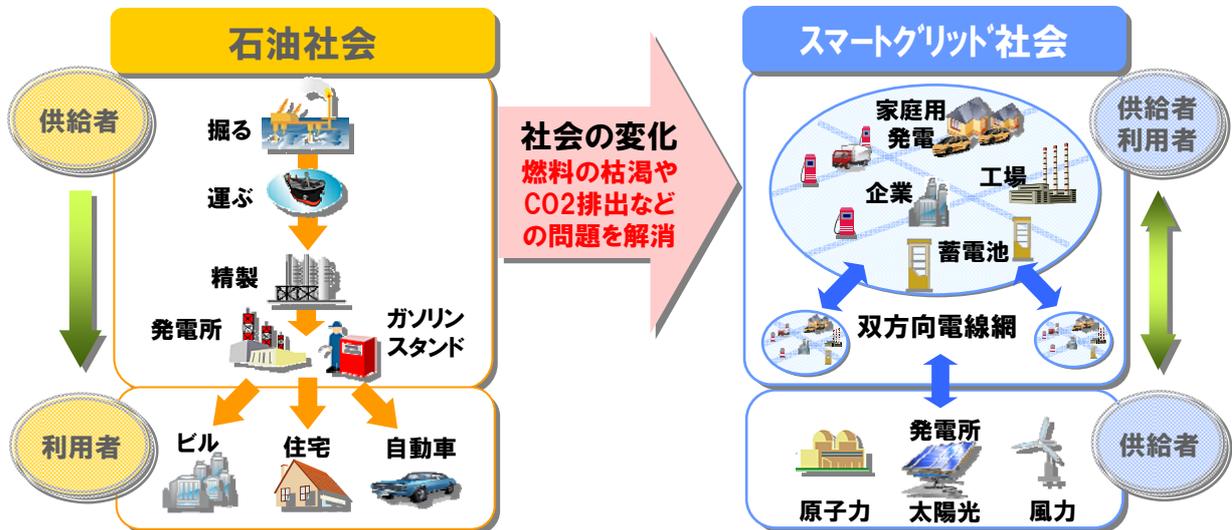
※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、  
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。  
スパークスの日本株の情報発信レポート

第41号(2010年7月7日)



## 「地球温暖化とスマートグリッド革命」

米国のオバマ政権が、リーマンショックで大きな痛手を負った米国経済を立て直すために、「グリーン・ニューディール政策」を打ち出しました。今回はその地球温暖化対策に向けて、一躍注目を浴びることとなったスマートグリッドについて見てみたいと思います。



社会の変化  
燃料の枯渇や  
CO2排出などの  
問題を解消

石油社会では、石油を掘って、それをタンカーで運び、精製した後に私たち利用者のもとに流れるという仕組みでした。このエネルギーの流れが一方であった時代では、供給者がエネルギーの価格や量などを管理し、利用者に提供する経済構造になっていました。

電力が双方向に流れるスマートグリッド社会では、供給者と利用者が同じグリッド上に存在し、電力不足の家や地域と電力が余っている家や地域などの間で、無駄なく効率的にエネルギーの需給調整ができるようになります。これは社会生活のあり方を大きく変えるものです。

スマートグリッドは、私たちの身の回りの生活やライフスタイルに大きな変化をもたらします。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート



スマートハウスでは、情報通信技術を利用し、電力の流れるもの全てがスマートグリッド（双方向電線網）につながり、家全体の省エネを図ります。

太陽光発電や風力発電は発電量が天候に左右されるため、電力の安定供給が難しく、スマートメーターによる電力消費量の見える化により、効率的に電力を使用することが必要となります。この住宅全体の電力を管理できるシステムにより、天候に左右されない電力の安定供給が可能となります。例えば、発電量が多い場合には、家電の稼働率をあげたり、また電気自動車へ自動的に充電が行われたりします。一方、発電量が少なく電力の供給が少ない場合には、家電の稼働を抑え、また電気自動車のバッテリーに溜まっている電力を家に戻して利用したりすることもできます。



また、住宅の太陽光発電でつくられた余剰電力を電力会社に買い取ってもらうことや、電力の足りない住宅や企業に売却するという、いわゆるエネルギーの「地産地消」ができるようになります。もちろん、地域間でもエネルギーのやり取りができるようになります。こうした発電のコントロールや電力のやり取りにも情報通信技術が必要不可欠です。太陽光発電などの導入を通じ、地球温暖化ガスが削減できるような社会を実現するためには、情報通信技術と電力ネットワークを一体化させたスマートグリッドが必要不可欠なのです。

スマートグリッド革命によりエネルギーの使い方が変われば、社会や経済の構造が大きく変化します。新たなビジネスチャンスが生まれ、成長する企業も数多く生まれてくるのが想定されます。省エネ大国ニッポンには、身の回りのあらゆる分野で世界に誇れる高度な環境技術が数多くあります。地球温暖化対策に向けて社会や経済の構造が変わる過程で、再生可能エネルギーを使った電力の利用範囲が広がり、省エネ技術に強みを持っている日本企業の活躍の場も広がることでしょう。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があります、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。